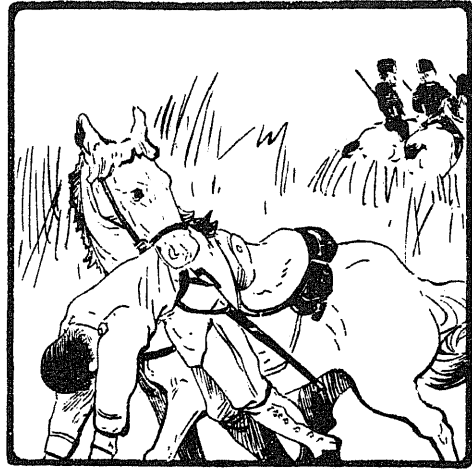


### 愛馬主を救ふ

いつか、お馬の忠義なお話をして、いづれ、今度の戦争にも、忠義なお馬のお話などが出るでせう



と置いて置きましたが、案の通り、次の様な面白い話が、新聞に出ましたから、おしらせします、  
寒馬集斥候戦の日、我騎兵の小隊は任務の上より

止むなくも敵を見棄て、退却すべき事になった、  
其時小山田騎兵上等兵は殿騎と成つて来たが、敵の追射撃にわひ左肩胛部を貫かれた、病手ながら先途の場合、堪へ〜て一行の跡をつけ、とある杜の角まで疾驅させて来たが、終に馬から轉落ち人事不省に陥つた

不圖氣がつくと上等兵は何物にかヅル〜と曳きづられ、樹の根で横腹を打つたので驚いて眼を開くと、平生愛してゐる乗馬が上等兵の服を口に嚙へ身を没する計り雑草の茂みへと隠したのであつた、上等兵は吾身も愛馬も無事であつたのを喜び手を上げて其平首を叩いてやると、馬も懐かしげに其鼻面を上等兵に摺付け〜しては首を振るのであつたが、其時敵の七八騎今まで上等兵の倒れてゐた處を馬蹄高く追跡して來其とも心付かずし

て遠く其姿を没して了つた、馬は其を見ると共に  
然も安心したる様に一聲低く嘶いたので、上等兵  
は初めて吾身の危急の場合を其愛馬が前知して助  
けてくれた事を悟り、思はず馬を抱いて感激の涙  
を流したとの事である

犬を斃れた犬

佛國ピッドフォオルドの或る人は、日頃何んでも棄  
てあるものは取て来いと其愛犬に教へて置いた。  
處で或る日其人は、家の庭の池の中の鯉を殺す爲  
め、爆裂弾を投げ込んだ、すると其犬は突然飛び  
込んで其弾を啣へ弾は破裂して終に死んで仕舞つ  
たそうです。

お話し三つ

馬鹿の夫婦

ひかし、或所に夫婦者が居て、三枚の餅を二  
枚づゝ分けて食つて、残つた一枚を二人して半分  
づゝ食はうと言ふと、婦の方のいふには、「夫より  
はこれから二人で無言の行の仕較をしよう、そし  
て先きに語ふた方を敗とし、勝つた者が、此餅を  
食ふことにしやうじやないか」そこで、夫も「夫  
がよからう」といふので、夫から二人して夜中ま  
で、無言の儘で睨み合をして居た。所が、丁度、  
其處へ盜賊が這入つた、そして、夫婦の者が、自  
分を見ながら然言であるのを見て、全く恐ろしい  
から黙つてるのだなと思つて、そこから中の物を引  
き出して持つて行かうとした。そこで、婦はとう  
く堪らなくなつて夫に對ひ、「お前さん、男のく  
せに、何で盜賊を見逃すのです」と言ふと、夫は